



🌳🌳 国産材でできたおもちゃで遊ぶ子どもたち(木育キャラバン)



## 地域との社会的提携により 子どもたちのよりよい遊びをサポート ——NPO法人日本グッド・トイ委員会



東京おもちゃ美術館の運営をはじめとした木育や子育て支援等について語る理事長・館長の多田千尋さん。

### 🌳 森をささえよう

### 🌳 森と暮らそう

NPO法人日本グッド・トイ委員会は、市場にあふれるおもちゃの中から優良なおもちゃを選び普及させること、おもちゃの専門家の育成を通して、子育て支援をはじめとする社会貢献活動を行っている団体です。

昭和59年の設立当初から行ってきた木のおもちゃの普及活動や、国産材を使用したおもちゃの紹介といった二連の取組が木育推進と共通することから、森林から遠く離れた都会で行う活動が「森林に関心を持ってもらう最初の一步」となることを願い、本年3月、フォレスト・サポーターズに登録しました。

私たちのテーマは、地域とのソーシャルライアンス(社会的提携)です。これは、地域のさまざまな主体が垣根を越えて、社会的事業や理念・文化において提携し合いますよ、ということ。この考えに基づいて、難病児の遊びケアポランテア、おもちゃの広場を中心とする子育て支援、グッド・トイの選考とおもちゃコンサルタントの養成、東京おもちゃ美術館の運営などの事業を行っています。

東京おもちゃ美術館は、ふれて遊べる体験型のミュージアムです。昭和59年に東京中野で開館し、平成20年に四谷第四小学校の建物を受け継い

で現在の場所に移転しました。

おもちゃ美術館に入ると、まず最初にミュージアムショップがあります。そこでは木製のものを中心として国産のおもちゃを多数展示・販売しています。実は日本のおもちゃの自給率は5%を切っており、国産のおもちゃを集めるのは非常に難しいのです。そこで、我が国の豊富な木材と優れた木工技術を活かした地産地消のおもちゃに力を入れようと思い、全国各地の200人のおもちゃ職人さんに協力を依頼する手紙を書きました。その結果、全員が協力してくださることになり、あつという間に約1000も

フォレスト・サポーターズ  
4つのアクション  
活動紹介



開催地の出雲市の建具店が作った十字型の積み木(木育キャラバン)

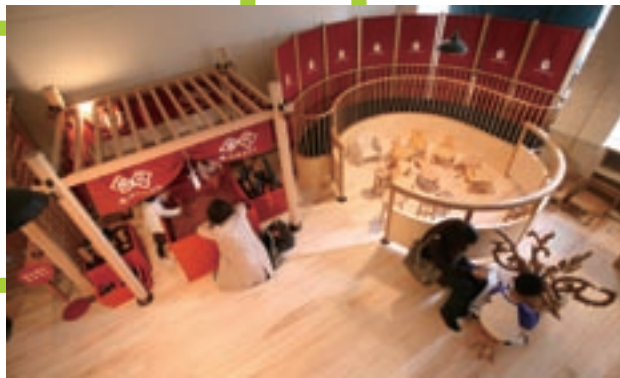
六角形の積み木と木曾檜のおはじきで遊ぶ子どもたち(木育キャラバン)



「赤ちゃん木育広場」事前研修会。北海道から沖縄まで50名の開催者が集まり、木育の意義や、おもちゃの魅力の伝え方を学んだ。



グッド・トイで初の林野庁長官賞を受賞した「ビー玉の音色と引きぐるま」



国産檜を床材に使った「おもちゃのもり」(東京おもちゃ美術館)

今日からやろう! 森のための  
4つのアクション

森にふれよう

木をつかおう

のアイテムが集まりました。スペインでは、「アニマシオン」(直訳すると、わくわくどきどき)が乳幼児期の段階で必要だといわれています。東京おもちゃ美術館が子どもにプレゼントしたいのが、このアニマシオンです。フォレスト・サポーターズとして、自然の大切さや豊かさをアニマシオンとともに子どもたちにプレゼントする木育を推進していきます。

森林から遠い都会にある美術館で、木の香りに包まれ、木に触れ、木と遊ぶことで、木を好きになつてもらえれば、訪れた方々の視線を森林へと導いていくことができるのではないかと考えています。そのためのアプローチのひとつとして、力を入れているのが、五感で木と触れ合える「おもちゃのもり」です。国産材の魅力や匠の技が子どもたちに対して活かしたいという願いを形にしたものです。

また、地方を対象として、現在までに全国で150か所程度の「おもちゃの広場」をつくってききました。これは、ミニミニおもちゃ美術館ともいうべきものです。おもちゃコンサルタントの資格を持つている方が地元におもちゃの広場をつくりたいと希望すると、およそ10万円相当の木製のおもちゃが届くというシステムです。

10月からは、新たにおもちゃの広場に木育の要素を取り入れた「赤ちゃん木育広場」が始まります。これは子育ての中心に「木」を置き、0〜6歳児に木や自然の原体験をってもらうことを狙いとしたものです。今年は50か所で開催し、毎年50か所ずつ増やしていきたいと考えています。ほかに全国を回る「木育キャラバン」や、11月に開催する全国のキッズ・サイズ・デザインの木製品を集めた見本市「森のめぐみの子ども博」などの木育関連事業を通し、①楽しみながら、②体験を通し、③感性に訴えた木育活動を目指しています。

来年度からは幼稚園の先生や保育士さんをターゲットに、木育を広げていくための講座を開催し、人材の育成に力を入れたいと考えています。